

■ YIS の学びとは？【SGH&外国語】

令和元年度の卒業生（12期生）は、YIS 在学中の1、2年次にSGHを経験しました。本校を卒業する前にSGHの経験について昨年度11月に実施したアンケートの結果をご紹介します。SGHの学び方は、「総合的な探究の時間」を中心に今後も継続します。外国語学習への取組方も調査しましたので、是非、参考にしてください。

- Q1 YIS 卒業後も引き続き大学等で課題研究のテーマを追求しようと考えているか？ ⇒ 38 %
- Q2 SGH の取組で得た知識や技術はあるか？
- | | |
|----------------|--------|
| リサーチの方法 | ⇒ 87 % |
| 論文の書き方（日本語・英語） | ⇒ 94 % |
| プレゼンテーションのスキル | ⇒ 85 % |
| 異文化への興味関心 | ⇒ 83 % |
| 世界が抱える課題への関心 | ⇒ 88 % |
- Q3 高校在学中、3年次の秋までに外国語外部試験を受験したか？ ⇒ 86%
- Q4 高校在学中、3年次の10月までに英語外部試験CEFR レベル B2（英検準1級）以上を取得したか？
⇒ 57%（内訳：C1（英検1級）は11%）
- Q5 Q4 の英語外部試験は何か？
- | | |
|----------------------|--------|
| 実用英語検定試験 | ⇒ 68 % |
| IELTS | ⇒ 8 % |
| TEAP | ⇒ 4 % |
| TOEFL iBT | ⇒ 6 % |
| TOEIC L&R/ TOEIC S&W | ⇒ 7 % |
| GTEC | ⇒ 1 % |
- Q6 英語以外の外国語外部試験を受験したか？
- | | |
|------|--------|
| 受験した | ⇒ 41 % |
|------|--------|
- Q7 今後、留学や海外研修を考えているか？
- | | |
|-------|--------|
| 考えている | ⇒ 79 % |
|-------|--------|

※SGH 指定校時代の課題研究のテーマは、基本的にはSGHのサブテーマであった「グローバルビジネスの新しい戦略構想」「新しい国際平和貢献への道」「世界の環境問題の解決に向けての提言」を踏まえ、自らのテーマを設定して課題研究を行っていましたが、SGH 指定校終了後は、生徒が設定する研究テーマについては、SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標)にも広げることが認められています。

■ 平成26～30年度SGH指定校

～事後評価結果発表～

本校は、平成26年度から5年間、スーパーグローバルハイスクール（SGH）として指定された56校の1校ですが、令和2年3月31日付けで研究開発完了後の事後評価「事業計画どおりの成果を上げており、事業目的は実現された」とともに次のコメントが文部科学省から送付されました。

高い評価を頂くことができたのは、YIS 生と教職員全員でSR、PR、DRを中心とした課題研究に取り組んできた成果だと感慨深いです。現在、YIS がSGH で開発したルーブリックを活用してSR、PR、DRを評価できるようになったのもSGHを経験できたからとも言えます。今回、頂いた「評価のコメント」及び「成果の普及」を皆さんと共有し、「総合的な探究の時間」を中心にした今後の教育活動につなげていきます！

《評価のコメント》

SGH 事業においては、国際情報科および国際科すべてを研究開発対象生徒とし、研究開発に関連する英語宿舎、バンングラデシュ・ベトナム・カンボジア・マレーシアへの海外スタディツアー、大学院生による講演会やピアサポート、総合的な学習の時間における課題研究の取組を通じて、生徒たちの学習への取組や態度、姿勢の変化、また、SGHを通して自分自身の成長を実感している生徒が増えたことなどが高く評価できる。

また、これらの取組を通じて、CEFRのB2レベルに達している生徒の割合が75%に達したことなどが評価できる。

この取組で開発・実践してきた教育課程は、「総合的な探究の時間」につながる「総合的な学習の時間」の研究開発であり、今後、多くの高校の教育課程や授業実践に大きな影響を与えることが期待できる。

《成果の普及》

本事業による成果については、国民・社会に対する説明責任を果たすとともに、他の高等学校等に対する情報的享を通じた成果の幅広い普及の観点から、今後も2014年度スーパーグローバルハイスクール指定校として、管理機関や指定校等によるホームページ等による情報提供をお願いします。